

# 博物館だより



No.119

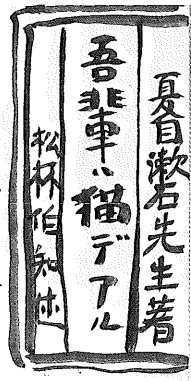
平成28年10月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

## 博物館新展示・ここに注目! 小宮豊隆資料 「漱石コレクシヨン」 Vol.6

夏目漱石没後百年の今年、文豪ゆかりの事は注目の的で、博物館所蔵の「小宮豊隆資料」もその一つです。漱石の愛弟子で町出身の文芸評論家が愛蔵した、漱石ゆかりの逸品をご紹介します。今回はコレ!

●小宮宛て漱石書簡(3) 明治40年夏目録  
漱石がメールやSNSのように書簡を乱発していたことは既



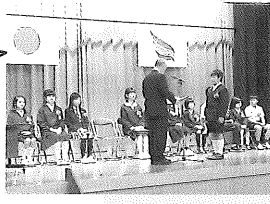
夏目漱石先生著  
吾非車、猫デアル  
松林作知林  
夜五の  
本ワロシ陰ハフ通フカラコシ  
ナ有板ガアソテテ面合良ワリ  
全体ドニチヲ進ヘルコトハ何カシラ

▲町歩きで見つけた看板を思わず写メした気分溢れるはがき  
板を漱石が発見し「軍記物でもないあの小説を講談だつて?」と困惑しながら思わずつぶやいた一言を小宮へ届けたのです。張り扇片手に語られる「猫」は漱石ならずとも「全体ドンナ事ヲ述ベル料簡カシラ?」

にご紹介したところですが、そのことを端的に物語るユニークなハガキが小宮宛に出されています。漱石のデビュー作「吾輩ハ猫デアル」が、当時からベストセラーとなっていたかが分る本人発の「ツイート」です。まだラジオもなかった当時、ニユースや売れ筋本のPRには浪花節でおなじみの講談師が活躍しました。ブームとなった「猫」も早速その俎上に載り、当時盛名を誇った講談師・松林伯知の上演が決定、その予告看板を漱石が発見し「軍記物でもないあの小説を講談だつて?」と困惑しながら思わずつぶやいた一言を小宮へ届けたのです。張り扇片手に語られる「猫」は漱石ならずとも「全体ドンナ事ヲ述ベル料簡カシラ?」

## 「文化のみやこづくり」プロジェクト事業 開催日:10月23日(日) 於:みやこ町中央公民館など 第4回みやこ町古墳まつり with 秋月街道シンポジウム

ふるごとゆかりの最新の研究成果が聞ける文化講演会。今年のテーマは「秋月の乱 維新その後」



こどもたちによる歴史ゆかりの絵画作文コンクールとその表彰式。会場に入場券を掲示!

平成23・24年度に行われたみやこ町古墳フォーラムの成果をもとに始まった「古墳まつり」。古墳をはじめとする町内の豊かな歴史・文化遺産を活かした特色あるまちづくり・学びの場づくりを楽しみながら進めてゆく「学びの祭典」です。  
様々な「楽習」メニューが用意されています。皆さんそれぞれが関心を持つ分野やイベントにお気軽に「ご参加下さい!」

## 講座・教室・催し物ガイド 10月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】 10月1日(土) 9時30分
  - 【古文書講座】 10月8日(土) 10時00分
  - 【古典かな講座】 10月15日(土) 9時30分
  - 【みやこ学講座】 10月22日(土) 10時00分
- ※日程等変更となる場合があります。

## 「秋月の乱」終結140年記念 歴史たんけんウォーク参加者募集

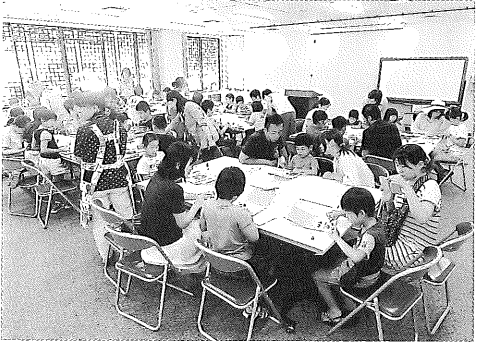
明治9年の「秋月の乱」の際、故郷は新時代の「産みの苦しみ」を経験しています。この乱の動向を現地を見て理解する歴史たんけんウォークを左記要領で行います。ふるつてご参加下さい。  
・日時:10月23日(日) 9~11時  
・場所:博物館発着〜八景山  
・定員参加費:30名(先着順)200円  
※詳細は博物館宛てお問合せ下さい。

## 当日の主な楽習メニュー

- 歴史たんけんウォーク(左記参照)
  - 歴史文化カレッジ講演会 (13:30~14:45)
  - 「武家の終焉と国民の成立(仮題)」講師:落合弘樹氏(明治大学教授)
  - 絵画・作文コンクール
  - 掲示(12:30) 表彰(15:00)
  - 入場券掲示および表彰式
  - グランプリ絵画作品会場内投票
  - 記念芸能上演(講演会前後)
  - ・秋月光月流太鼓(朝倉市)
  - ・犀川の盆踊り(みやこ町)
- ※一部内容が都合により変更される場合があります。  
※催事の部は「秋月街道ネットワーク」の会の皆さんの協力を得て行われます。  
※参加申込問合せは博物館334666へ。

## 8月の業務日誌から

8月27日(土)、博物館研修室で、町内の小学生を対象とした、夏休み体験教室「鉱物標本を作ろう!」が行われました。当日は親子50名の参加があり、鉱物について学芸員が説明した後、実際の鉱物を使って標本を作りました。参加した児童から「将来は鉱物学者になりたい!」という、うれしい感想をいただきました。夏休みの自由研究に間に合いましたか?



▲専門家も驚きの本格的な鉱物標本ができました



▲「石のナイフ」に興味津々。切れ味は?

# みやこの歴史発見伝 92

## みやこ町の古い地名3

# 豊津地区 2

今回は、前回に引き続き豊津地区の古い地名について見ていきます。

### 徳政

徳政は祓川西岸の沖積地で、国作の南側に隣接します。

鎌倉時代から室町時代に朝廷や幕府が土倉などの債権者・金融業者者に債権放棄を命じた徳政令に由来する地名かと考えられますが、単に好字佳名かもしれません。また、地名の使われ始めた時期は不明です。

西側の台地上には町指定史跡の豊前国分尼寺跡があります。

### 国分

国分は徳政の西側の台地上に立地しています。

地名は豊前国の国分寺があったことに由来します。

国分寺は奈良時代の天平一三年（七四二）に時の聖武天皇の詔を受けて建立された国立寺院です。天平勝宝八年（七五六）頃には主な建物が完成していました。戦国時代に戦乱により焼失したと伝えられますが、江戸時代に

なると小倉藩の支援により、本堂・鐘樓門・庫裡などが再建され、三重塔も明治二九年（一八九六）に当時の住職の尽力により建立されました。

現在、国分寺跡は国の史跡に、三重塔も県の有形文化財に指定されています。



▲豊前国分寺

### 彦徳

地名は好字佳名を当てたと思われませんが、見特であれば富籤を意味するので、地内の若宮八幡神社で富籤が行われていたことに由来するとも考えられます。

集落の東側台地上に県指定史跡の彦徳甲塚古墳があります。この古墳は二重の周濠をめぐらす雄大な古墳で、兜を伏せた形を想起させることから、行政区名の甲塚の由来になっています。



▲彦徳甲塚古墳

### 豊津

豊津の名称は、豊前国仲津郡の「豊」と「津」を合わせて、明治二年（一八六九）に新しく作られたと考えられています。

豊津台地は江戸時代には難行原と呼ばれ、人家も稀な土地でしたが、天保十年（一八三九）以降開発が進み、道路や家屋が整備されていきました。このため、この地区の行政区の地名は比較的新しいものようです。

### 上坂

上坂は豊津台地の南端近くの沖積地に立地します。

「京都郡誌」は「上坂」と書き、「山の半腹にあるを以て上

坂と称すといふ。昔は国分村より分れしものなるべし」としていますが、地名は国分村から「上手にある坂」という意味に由来するとみられます。

寛永九年（一六三二）の「仲津郡寛永六年七年八年三ヶ年之御免帳」には村名がみえませんが、同年小倉藩主として小笠原氏が入部後まもなく、国分村から分村したと推定されています。

### 上原

上原は祓川の東岸段丘上に立地しています。

地名の由来は、前回の綾野の項で簡単にふれましたが、綾野の集落が古くに成立し、その北に成立した集落を下原、南に成立した集落を上原と呼んだのではないかと考えられます。

### 吉岡

吉岡は上原の東側に隣接しています。

地名の由来は、台地（岡）上に植生した蘆（あし）にちなみ、はじめ葦（よし）岡とし、さらに「悪し」に通ずる葦をさらって葦に吉を当てたともいわれます。天文十二年（一五四三）七月二十九日の「城井正房知行宛行状」によれば、城井正房は針（進）弥五郎に吉岡名八段と屋敷一ヶ所を宛行っています。

### 光富

光富は上原南方の沖積地に立地しています。

「豊前国古史地名考」によれば、地名はもと「三登美」とし、「和名抄」に見える仲津郡中臣郷中登美に比定していますが、中世の土地支配者が命名した好字佳名ともみられます。

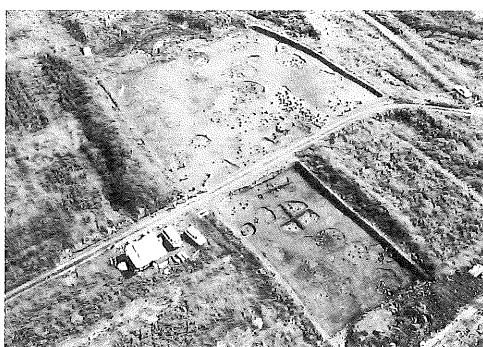
観応三年（一二五二）三月二三日の「宗像資村軍忠状」に光富の地名が見られます。

### 節丸

節丸は光富の南側に隣接しています。

地名は渋見城の出丸（出城）に由来するとの説、豪族の子息に与えた土地に子息の名が付けられたとの説などがあります。

節丸の祓川西岸から、約三五〇年前の縄文時代の集落跡が発掘されました。この集落跡は節丸西遺跡といい、北部九州でも有数の大規模集落で、竪穴住居跡が二十四軒調査されました。



▲節丸西遺跡

（末永弥義）